

2021年2月25日

2021年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

環境技術への取り組みについて

- ・アンモニア、水素燃料対応バーナーの開発に着手したとあるが、自社のみで出来るのか今後、どこかとパートナーを組む可能性もあるか伺いたい

→バーナーは当社にとっては技術の塊のようなもので、アンモニア、水素については、大学との共同研究により基礎燃焼の知見を得た後、当社単独で実製品の開発を行なう。開発のスピードを上げれば短期間で開発も可能であるが、燃料コストが下がるタイミングに合わせて25年完成予定としている。

- ・中温化プラントについて、フォームド装置は1機どれくらいの金額か教えて欲しい。また既存プラントに追加設置が可能なものか、今後の成長スピードのイメージについても伺いたい

→フォームド装置については新設プラント取り付けることはもちろん、既存のプラントに追加で取り付けることも可能である。価格は1台千数百万円程度。今後は年間30~40台程度は普及していくと見込んでいる。

- ・中温化アスファルト合材に対応出来る装置について、他社は競合となる製品は出していないのか。また、収益率や成長率をどのように考えているのか伺いたい

→AP競合他社は自社で同種の製品は持っていない。但し、同種製品を製造しているメーカーは他にもあるため、競争は当然ある。この中、プラントとフォームド装置を共に製造しているのは当社だけのため競争優位にあると考えている。

→中温化合材へのユーザーニーズは高いので、成長性も高いと思われる。収益性に関しては今後、量産化が図れるためアップすることを見込んでいる。

既存事業の状況について

- ・ AP の更新投資は理解した。BP についてはどのように考えているか伺いたい

→BP も AP と同様に新設プラントはほぼ無く SB（スクラップ&ビルド）がほとんどである。現在、日本全国で 3,000 台を超える BP が設置されているが、AP 以上に BP は台数が減ってきている。BP は AP ほど極端にある時期に集中して新設された時期はないが、生コンクリート業者は SB で新プラントを購入する場合に 1 億円前後の設備投資となるので、採算性を考える必要がある。今後も市況により、BP は投資されるかどうかの判断になると考えている。

- ・ BP で営業努力により、マージンが改善したとあったが具体的なものを伺いたい

→長納期案件に対して商談を効率的におこない、短期間に仕様をまとめ納期に余裕をもたせることでコストの削減ができた。

- ・ 環境及び搬送関連事業における JR 関係の受注について、例えば、何らかの災害復旧対応など、どのような背景に基づく受注なのか教えて欲しい。また鉄道関係の受注は久方ぶりと述べていたが、従前と比べてどのようなものか伺いたい

→JR 関係の受注は初めてのものではない。JR 関係の仕事は、今回に限らず 3~4 年に一回のタイミングで受注しており、今回も災害復旧用のものではない。

- ・ モバイルプラント製品の高い伸びは、自走式破碎機の寄与か新製品の寄与か伺いたい。また利益についてのイメージも教えて欲しい

→モバイルプラント事業は自走式の破碎機と自走式のコンベヤがメインの商材であり、売上高は自走式の破碎機が殆どである。この 2 つは自社製品でなく、破碎機はドイツ企業から自走式のコンベヤは北アイルランド企業から輸入している。

→立ち上げたばかりの事業だが、既に損益分岐点を超えるだけの売上高を計上出来ており、今年度モバイルプラント事業は黒字になる見通し。我々としては、更に市場シェアを獲っていきたいと考えている。

・リモートメンテナンスの現在の普及率について伺いたい

→契約率はユーザーの70%強。少しずつではあるがリモートメンテナンスの加入率は上がっている。

・新型コロナウイルス感染症でメンテナンスの売り上げに支障は出ていないか、また納期遅れのリスクはあるのか伺いたい

→メンテナンスについて、ほぼコロナの影響は出ていない。またコロナに関連した納期遅れのリスクもない。第3波の影響は、メンテナンスも工事も受けなかった。

・中国の顧客動向について補足して欲しい(=どの地域で投資が動いているのか、新規顧客開拓は進んでいるのか)

→特にどの地域ということではなく、全般にインフラ投資は出ている。中国は非常に短期間でコロナを抑え込み、高い経済成長率を続けており、インフラ関係にもかなりの投資資金が出てコロナ前に完全に戻った状況にある。

来期以降の見通しについて

・来期の受注および業績に関して、イメージで構わないので伺いたい

→受注は今年度高い水準で着地する見込みであることを説明したが、営業部門からの情報によると来期も良い状況が期待される。

→APに関しては資料にあった過去の出荷台数グラフから、当面は比較的高い水準で推移すると考えている。BPは生コンの価格次第だが、国の国土強靱化政策の後押しもあり今のところはお客様の設備投資意欲は引き続き高い水準で推移すると見ている。

→売上については、来期は受注残高が今期スタート時点の受注残高より高いところからスタート出来るので、今期以上が見込めるのではないかと考えている。

・AP と BP の来期以降の考え方を伺いたい。利益率は受注から鑑みて、更に改善することも期待できそうだが、どのように利益率の改善を期待しておけば良いのか伺いたい

→AP に関しては、来期以降も 1980 年代後半から 1990 年代に設置されたプラントの SB (スクラップ&ビルド) 時期到来により、当面の間ユーザー需要は高水準で推移すると見ている。標準設計品である「VP シリーズ」の拡販とコストダウンに努めることで、利益率の改善を目指していく。

→BP に関しては、来期は期初の高い受注残により今期以上の売上を現時点で見込んでいる。中期的にも国の国土強靱化政策の後押しもあり、ユーザーの設備投資意欲は旺盛に推移する見込み。高い需要が続けば、今期並みの利益率は維持出来ると考えられる。

株主還元について

・株主還元を強化しているが、自社株買いについての位置づけはどのようになっているのか伺いたい

→自社株買いについて今年度は約 4 億円を行なった。来年度以降についても利益状況を見ながら進めていきたいと考えているが、現時点で来年度以降の自社株買いについて想定していることはない。今年度の約 4 億円の自社株買いをおこなった背景は、前田道路の特別配当金 3.5 億円の特別な利益があったので、これを全て株主へ還元しようと考え、これを原資に自社株買いを行なった。来年度以降もこのような特別な一過性の利益、期初に目論んだ利益よりも良くなるような状況になれば、自社株買いを検討したいと考えている。

(注)本質疑応答要旨は決算説明会に参加されなかった方への情報提供も含めておこなっていますが、その内容につきましては理解し易いように一部で加筆・修正していますことをご承知おき下さい。

日工株式会社 財務部 IR 担当